

# おらほ！のまちづくり

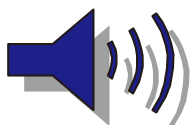
## まちづくりの

### ヒント発見！？

地域では、いろんな創意工夫をしながら、まちづくりに取り組んでいます。ここにご紹介する事例が皆さんの活動の参考となればと思います。

## 目次

身近な地域資源を活用した絆づくりへの挑戦 ～絆づくり田んぼアート実行委員会～【愛子地区】	1 P
田子西地区との新たな絆づくり ～田子6町内会連絡協議会～【田子地区】	2 P
チアリーダーの力で地域を元気に「元気届け隊」 ～NPO法人クラブス～【長町地区】	3 P



## お知らせ…

### 「地域のみなさんで行うまちづくりを応援します」 ～まちづくり支援専門家派遣制度～

仙台市では、地域の方が主体的に行うまちづくり活動を支援するため、まちづくりを行っている団体（例えば、町内会等）に対し、仙台市からまちづくり専門家※を派遣する制度を設けています。まちづくり専門家は、まちづくりの勉強会や意見交換などの初期段階の活動から、まちづくりの計画策定などのより進んだ段階の活動まで、専門的なアドバイスや情報提供などのお手伝いをします。

派遣対象となるまちづくり活動は、町内会等が地域の街並み環境の整備および保全に関する学習を行う活動、地域の活性化を図る活動またはまちづくり計画案を作成する活動で町内会等が主体となって行うものとなります。

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

■アドレス [http://www.city.sendai.jp/toshiseibi/1193458\\_2658.html](http://www.city.sendai.jp/toshiseibi/1193458_2658.html)

■問合せ 都市整備局 都市計画課 (TEL022-214-8295)



※まちづくり専門家  
まちづくりや地域の活性化に関する知識や経験がある、本市に登録しているアドバイザーまたはコンサルタント

## 発行

- 宮城総合支所まちづくり推進課  
電話 022-392-2111 (内線 5135)
- 宮城野区役所まちづくり推進課  
電話 022-291-2111 (内線 6132)

- 太白区役所まちづくり推進課  
電話 022-247-1111 (内線 6138)
- 市民局地域政策課  
電話 022-214-6129 (直通)

## 身近な地域資源を活用した絆づくりへの挑戦

～絆づくり田んぼアート実行委員会～

### めざすのは人の輝き&地域の輝き

東日本大震災を経験して、改めてわたしたちは地域の「絆」の大切さを実感しました。愛子地区の特色は、急激な都市化の進行する中にあり、次世代を担う子どもたちが非常に多いことです。この地域のかげがえのない資源である自然、歴史、文化、伝統等を次世代を担う子どもたちに伝えていくためには、世代間交流や新旧住民の交流が不可欠になってきています。

広瀬市民センターではこのような問題意識から、平成24年8月より「田んぼでカフェ事業」を実施して、地域資源である「田んぼ」を活用した絆づくりと地域づくりをめざす「田んぼアート」についての学習活動を行いま

した。その後、カフェの参加者から、学習の成果として地域・学校・事業者・関係機関が一体となった実行委員会形式による「絆づくり田んぼアート事業」の提案がなされ、早速その実現に向けた実行委員会が平成25年2月に13の関係団体により設立され、現在は2年目の活動に精力的に取り組んでいるところです。

平成26年は、前年の3倍となる30アールの水田に、子どもからお年寄りまで地元住民の手によってさまざまな色の稲が植えられ、「むすび丸」を色鮮やかに描きました。



全体の風景

### 田んぼアートの特徴とメリットは？

愛子地区で取り組んでいる田んぼアートの特徴について、メンバーである阿部さんからお聞きしました。「だまし絵（トリックアート）と言っていますが、見る角度によって違ったものに見える。これが愛子地区の特徴になるのではないのでしょうか。これを今後もどこかに入れていきたいと考えています。さらに、田んぼアートは、秋保温泉や作並温泉に泊まった他県の方々を通して、全国的にも広がっていく可能性があります。他の地域で行われている田んぼアートと違う点は、温泉街が近いことから、他県の方々にも宣伝できるというのが特徴です。」と話していただきました。

田植えから稲刈までの技術的な指導など、実行委員会の中核的な役割を担うのがJA仙台宮城支店西部営農センターです。

「田んぼアートという遊び心を通して、お米と

いうものを消費者に理解してもらえることは、農家の方にとっては大変いいことだと思っています。さらに、その一翼を青年部、女性部が直接手掛けていること、この事業を通して消費者と直接お話しができるということが、私たちにとって一番のメリットかと思えます。」と菅澤さん（JA仙台宮城支店西部営農センター長）からお話をいただきました。

愛子地区の田んぼアートは、日本の伝統的な稲作や米食文化への理解を深めるとともに、これを通して育まれる地域の絆をきっかけに、将来的な地域の活性化につながるものとして大いに期待されるところです。



#### 「絆づくり田んぼアート」への参加の形態

- 田んぼ所有者、土地所有者・・・田んぼ、駐車場、観覧場所等の提供
- 児童、生徒、学生・・・デザイン、田植え、稲刈、イベント等への参加
- 市民、サポーター（大人）・・・田植え、稲刈、イベント等への参加、協賛
- 町内会、学校、行政、JA、事業者、商工会・・・協力、支援、普及、参加、指導助言、協賛

### 今後の活動は元気な人も障害を持っている人も関わりを持てる事業をめざして！

田んぼアートの会場に一番近い学校が愛子小学校です。この取り組みについて、学校として、どのように感じているかを大友教頭に伺いました。

「参加した子どもたちにとって、とても有意義な体験ができたのではないかと思います。この活動を通して、地域の子どもと大人たちとの交流をはじめ、保護者同士や、学校と地域など、地域の横のつながりを強くできるのではないかと考えています。保護者、地域、学校の三者が同じ方向を向いて力を合わせていかないと学校は絶対良くならないので、三者が連携して地域が活性化していけば、必ずや学校の方にも

良い影響として返ってくると思っています。」と語っていただきました。

これからの活動は、フォーラムの開催などが予定されています。

「田んぼアートは、その成果を参加者が自ら確認できるということも魅力の一つです。障害を持つ方々にもこの活動に参加していただき、成果を実感していただくことが社会参画へのきっかけにもつながるかもしれない。」と期待しているのは、女性メンバーとして活躍する庄子さんです。



会議風景

## 田子西地区との新たな絆づくり

～田子6町内会連絡協議会～

### 田子西復興公営住宅支援者の会を結成

平成26年4月、宮城野区田子西地区に東日本大震災で被災し、住宅に困っている方のための復興公営住宅が完成。4棟合わせた募集戸数は176戸。4月7日から入居が始まったことを契機に、入居者が早期に新たな絆をつくり、互いに支え合い、一人ひとりが安心して暮らせるようにと、地区社協、近隣町内会、民児協を主体とする支援団体「田子西復興住宅支援者の会」が結成されました。

発足：平成26年5月28日発足

事務局：宮城野区社会福祉協議会

### 構成団体

高砂地区連合町内会  
 田子6町内会連絡協議会  
 田子グリーンパーク町内会  
 上田子町内会  
 田子二丁目町内会  
 田子南町内会  
 田子町内会  
 七福町内会  
 高砂地区社会福祉協議会  
 高砂第一地区民生委員児童委員協議会  
 福田町包括支援センター  
 田子小学校  
 田子中学校  
 田子市民センター  
 宮城野区社会福祉協議会  
 宮城野区（保健福祉センター・まちづくり推進課）

復興公営住宅は、市内37箇所に整備する予定です。

【内訳】  
 青葉区；9箇所  
 宮城野区；10箇所  
 若林区；11箇所  
 太白区；6箇所  
 泉区；1箇所

### 「ようこそ田子西へ」 ウェルカムイベント

### 田子西市営住宅「すいか祭り」

日時：平成26年7月12日（土）

14：00～16：30

場所：田子西市営住宅集会所および広場

参加者：約200名（入居者約130名、  
 支援者他70名）

内容：日本有数の西瓜の産地、千葉県富里市農業協同組合から被災地支援として送られてきた西瓜約50個を食べながらの交流会。初めて会う人ばかりにも関わらず、たくさんのチビ子が参加したこともあり、とても大賑わいでした。



すいか祭りの風景

### 「はじめましてのコンサート」

日時：平成26年7月24日（木）

14：00～16：00

場所：田子西市営住宅集会所

参加者：約60名（入居者約40名、  
 支援者他20名）

内容：「音楽の力による復興センター東北」の協力を得て弦楽四重奏ミニコンサートを開催。クラシックの名曲あり「ゴジラのテーマ」ありと多彩なプログラムで観客を魅了。最後は演奏者も観客も一体となり、歌を歌ってのフィナーレ。

32度の猛暑の中、続く交流会ではお茶やジュースを飲みながら「どちらのご出身？」「今度うちにお茶のみに来たら？」など、和やかな雰囲気での交流が行われました。



夕涼みコンサート

### 自治会設立準備意見交流会

日時：平成26年8月4日（月）

19：00～21：00

場所：田子西市営住宅集会所

参加者：約60名

内容：夜とはいえ真夏、窓を開け扇風機を全開にしても室温は30度を超えサウナのような暑さ。それでも入居者約60名が集まり、準備会の立ち上げとそのメンバー、第1回準備会の開催日などを決定。この日支援者の会を代表して出席されていた田子6町内会連絡協議会の鳴海会長は、二十数年前に自らも町内会設立に関わった経験を持つということで、その体験談は貴重な助言となりました。



そば祭りの風景

## チアリーダーの力で地域を元気に「元気届け隊」

～NPO法人クラブス～

### チアリーダーの力の見せ所

平成10年、福島県いわき市において、地域で頑張る人を応援するために結成されたチアリーダーチーム「クラブス」。

その後、宮城県内各地にチームができ、平成17年からは太白区内のチームが誕生して、「地域でがんばる人を応援！チアリーディングで街づくり、人づくり！」をめざし、活動を続けてきました。

東日本大震災後に、「今こそチアリーダーとしての力の見せ所」と立ち上げたのが「元気届け隊」プロジェクトです。「地域のチアリーダーとして私たちの故郷のためにチカラになりたい。」という一心で、小中学生のメンバーを中心に仮設住宅などでのボランティア活動を行っています。



タオル体操の風景

### 仮設住宅の訪問活動

太白区内での活動は、月に1回程度のおすと長町仮設住宅訪問です。「こんにちは、元気届け隊です！！」とお宅を1軒1軒訪問し、集会所で開催するイベントへのお誘いをします。集会所では、タオル体操、肩たたきやお茶会など楽しいひとときを過ごします。また、仮設住宅の夏祭りのお手伝いや周辺の美化活動など、さまざまな形で支援を行っています。

入居者には高齢の方も多く、家に引きこもりがちになる方もいます。子どもたちの元気な声が外から聞こえることで、少しでも外を覗いてもらえれば、引きこもり対策の一助となるのではないかと考えから、お声掛けや訪問活動を行っていますと、代表の石河さんは話してくれました。



元気届け隊、訪問活動風景

### 子どもたちの声

小学6年生の女の子は、「うちは被害がひどくなかったから、震災を忘れかけていたけれど、仮設住宅で暮らしている人がまだまだたくさんいることがわかった。」とのこと。また、「応援メッセージを書いたカードを届けたい。」「バルーンアートを教わったので仮設の子どもたちに配りたい。」と、今後の活動にも意欲的でした。

別の小学6年生の女の子は、チアリーダーとして参加するイベントの時と「元気届け隊」として仮設住宅でダンスを披露する時では、心がけていることが違うと言います。「仮設の時はお年寄りが多いので、目線を合わせるようにしています。」とのこと。

「元気届け隊」として、仮設住宅に元気を届けている子どもたちですが、「集まってくれた人たちが笑顔になると、自分も元気になる。」と話してくれた女の子もいました。

お話を聞かせてくれた子どもたちは、「初めての訪問の時には声を出せなかったけれど、元気よく大きな声を出せるようになった。」「初対面の人と話すのは

緊張していたけど、今は話せるようになった。」「自分より小さい子のお世話をできるようになった。」など、自分自身でも成長を感じているようでした。

「故郷のためにチカラになりたい」という思いで始まった「元気届け隊」の活動ですが、子どもたちの成長にもつながっているといます。「私たちの故郷をつくってくれた先人たちとの交流を通してさまざまなことを学んでいます。」とのこと。代表の石河さんは、「支援している」ではなく、「学ばせていただいている」という気持ちで活動を続けているそうです。



仮設住宅周辺の環境美化活動風景

### 今後の活動

仮設住宅はいずれなくなります。代表の石河さんは、「仮設住宅の方には子どもたちの成長や元気な様子を見守っていただき、自分たちは仮設住宅の方が震災を乗り越えていく様子を見届けたい、そして「元気届け隊」と同窓会のような交流の場が持てれば理想ですね。」と話してくださいました。



体操の風景